令和７年度使用中学校用教科用図書の採択理由

採択地区名　　　安芸郡教科用図書採択地区

種　目	発行者	選　　定　　理　　由
国　語	東書	話し合う教材では、他者と同様に「学習の流れ」として話し合う手順を示している。その際、手順と同時にその手順についての具体例を確認できるようなレイアウトとなっており、学習者がやり方を確認しながら学習を進めていけるような手立てが講じられている。また、社会生活の中から集めた材料の客観性や信頼性を確認し、目的や意図に応じて文章の種類を選択し構成や表現を工夫して書く学習において、学習の流れと具体的な例を示すとともに、「言葉の力」でポイントを示すことにより、学習者が主体的に学習に向かおうとする効果が期待できる。さらに、情報の扱いについては、単元としても設定するとともに、巻末の資料「思考のヒント」において、情報を集めたり分析したりするときの方法が示されており、個々の学びに応じて活用できるようになっている。
書　写	東書	知識及び技能の習得に関して、小学校での学びを振り返ることができるよう、二次元コードによる資料で詳しく説明しており、小学校から中学校への学習の連続性が期待できる。また、各単元において、はじめに学習の観点を示し、学習者に考えさせる構成となっており、目標をもって主体的に学習に取り組める工夫がされている。さらに、巻頭に「書写の学習の進め方」があり、振り返りでは、学んだことを自分の書いた文字を見ながら振り返ったり、学んだことを話し合ったりする活動が設定されており、自らの学びを調整しながら学習を進めていく構成になっている。
社　会 （地理的分野）	東書	「見方・考え方」を働かせる学習活動や「資料を活用する力をきたえよう」というページを設定するなど、見方・考え方を働かせるための工夫がされている。また、「未来にアクセス」のコーナーを設定したり、本文の記述や言葉を補足する用語解説を記載したりするなど、国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識及び技能を身に付けさせる工夫がしてある。さらに、日本で起こる自然災害や防災・減災に向けた取組、公共交通機関が災害の復興に果たす役割を記載してあり、防災教育の充実がされている。

社　会 (歴史的分野)	東書	学習のまとめの工夫として、単元末において学習課題や、探究課題について考えをまとめる活動を設定しており、思考ツールや観点を示すことで、多面的・多角的に考察することを促している。また、導入場面では、主体的に学びに向かえるように、小学校の社会で習った言葉、絵図と人物等の資料について考える学習活動を設定し、探究課題、探究のステップの解決に向けてヒントとなる着眼点を、キャラクターの台詞で対話的に示すなど、単元全体を学んでいくうえでの見通しがもてるように工夫している。さらに、無形文化遺産や身近な地域の主な史跡等に関する資料も掲載しており、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めることができる。
社　会 (公民的分野)	東書	学習のまとめの工夫として、単元末において、学習課題や、探究課題について考えをまとめる活動を設定しており、思考ツールや観点を示すことで多面的・多角的に考察することを促している。また、導入場面においてキャラクターによる吹き出しで問いを示したり、導入の活動を取り入れたりしており、学習の見通しがもてるようになっている。さらに、二次元コードが数多く示してあり、学習内容との関連付けについて工夫がしてある。
地　図	帝国	思考力、判断力、表現力等を育む工夫として、社会科の学習内容を確認したり深めたりする問いのコーナー「地図で発見！」や、ページ全体に関わる主題を示す「主題学習」のコーナーを設定しており、資料を関連付けながら思考することができる。また、インデックスを５つに分類・色分けをして示し、巻頭や統計にも豊富な資料を記載する等、内容の構成・配列・分量が適切である。さらに、歴史的事象の記載についても多数の例が示されていることから、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育むことができる。
数　学	学図	章のはじめや内容ごとに、話し合いを促す文があり、話し合いを中心として考えを深め、伝え合う工夫がされており、思考力、判断力、表現力等を育成することができる。また、章のはじめに振り返りを設け、下学年の学習内容を示したり、「数と式」の領域においては、誤答例から理由

		の説明や正誤の確認を促したりすることにより、知識や技能を習得させることにつながる。さらに、身近にあるものを題材にし、実際に活動しながら実感を伴った学びにつなげ、主体的に取り組むための工夫がされている。
理　科	東書	単元や章の内容に関する本質的な問いかけとして「Before＆After」を単元や章の初めと終わりに設定し、学習前と学習後で自分の考えの変容を客観的に捉えることができる。また、各節中のコラム「まちなか科学」「なるほどね！」や、各単元末のコラム「社会につながる科学」を学習内容に関連させて適切に配置しており、日常生活や社会と学習内容が結びつくようになっている。さらに、探究的な学習のサポートとして、デジタルコンテンツの種類が豊富であり、学習したことを定着させたり、学びを広げたり、深めたりすることができ、授業や家庭学習など生徒のニーズや学習形態に応じて使用することができる。
音　楽 (一般)	教芸	教材名の下に学習目標に迫るための具体的な活動文を示すことで、知識及び技能の習得を図ることができる。また、キャラクターの吹き出しで、考える観点や工夫の仕方を示しており、音楽を形づくっている要素に着目して音楽表現を創意工夫することができる。さらに、範唱に合わせた風景の映像と歌詞の動画を掲載しているページや、パート別とカラピアノの音源を掲載しているページにアクセスできる等、学習目標の達成に向けてデジタルコンテンツを効果的に活用することができる内容となっている。
音　楽 (器楽合奏)	教芸	注目するポイントとして、音楽を形づくっている要素を示すことで、音楽的な見方・考え方を働かせることができる。また、リコーダーの運指表とともに「替え指を活用しよう」を示すことで、リコーダーの演奏に対する興味・関心を高めることができる。さらに、デジタルコンテンツにおいて、姿勢と構え方、タンギングについての動画等があり、知識及び技能の習得において有効なものになっている。
美　術	日文	作家や生徒の作品を掲載したり、作品を実際に折って立てられるようにしたりすることで、興味・関心を高めることができる。また、鑑賞から表現、そして鑑賞という学習過程を示していることで、表現と鑑賞の効果的な関連付けが行われ、思考力、判断力、表現力等の育成ができる。さらに、吹き出しに造形的な視点を示すほか、鑑賞の入り口

		の問いや主文の中で造形的な視点を基に思考することを促すなど、共通事項の指導を充実させるための工夫がしてあり、知識及び技能の習得ができる。
保健体育	東書	思考するための発問や学習したことを自分の生活に当てはめて考えをまとめ、調べる活動を設定しており、思考力、判断力、表現力等を育成することにつながっている。また、「課題の解決」で文末に関わりのある資料と結び付け、課題解決につながる工夫がされており、主体的な学習に取り組むことができる。さらに、インターネット等を利用して学習できるマークの使用、デジタルコンテンツの充実により、個別最適な学びにもつながる内容の表現・表記がされている。
技術・家庭 （技術分野）	開隆堂	図表や写真が適切に用いられており、必要な箇所には生徒が自分で作業をしているように見えるアングルで撮影をした写真が使用されるなど、技能の習得を図るための工夫がされている。また、ガイダンスで技術の見方・考え方を取り上げ、各内容でそれを深めるようになっており、見方・考え方を働かせる思考パターンが身に付くような構成になっている。さらに、各内容の適切な箇所に「QR」マークが記載されており、個別最適な学びが実現できるように配慮されている。
技術・家庭 （家庭分野）	東書	思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫として、各編の導入に「この編で学ぶこと」、各節に「目標」を示すことで、自らの生活と照らし合わせながら学習の見通しをもたせるとともに、各編導入に課題設定の欄を設け、課題を見いださせるようにしている。また、主体的に学習に取り組む工夫として、「生活の課題と実践」において、学習過程に即した学習の流れを示すとともに、具体的な実践例を掲載することで、生徒が学習した内容を家庭や地域での実践につなげられるようにしている。さらに、学習を広げるデジタルコンテンツがある箇所に「D」マークを掲載し、１人１台端末の効果的な活用による資質・能力の育成を一層図れるよう内容の表現・表記の工夫をしている。
英　語	開隆堂	各単元の冒頭にある基本文「Scenes」では、具体的な場面を絵で示し、単元の新出文法を対話形式で紹介することで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができる。また、「Review & Retell」「Action」等が単元ごと

		に設定され、単元で学習した内容を基に、「聞く」「読む」「話す（発表）」「話す（やり取り）」「書く」等の言語活動を行うことができ、思考力、判断力、表現力等を育成することができる。さらに、巻末資料では当該学年の到達目標を４技能５領域で振り返ることができる、「CAN-DO リスト」が設けられ、目標をもって学習をすすめることができる。
道　徳	東書	学習の流れ等をイラストや吹き出しとともに示してあり、考え、議論する道徳の学習を進める工夫がされている。また、コラム「Plus」の中で、自分ごととして捉えたり、話し合いながら考えたりする場面が設定されており、主体的に学習に取り組むことができる。さらに、いじめ問題をテーマとした３つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」を設けたり、巻末に「人権・いじめ」をテーマとした教材を示したりすることで、多面的・多角的に考えることができる内容となっている。